新シリーズ

本物の温泉紀行

㈱広島建築住宅センター 常務 山口邦良

今年から「本物の温泉紀行」と題して、新連載を開始します。

出筆者は、山口邦良氏（㈱広島建築住宅センター常務）。長年建築に携わってきた山口氏が、本物の温泉を求めて休日の合間に全国を訪ね歩きながら発掘したもので、その中から、特に、印象に残った場所を何箇所か絞ってまとめたものを連載（月に1回ペース）していきます。

「3K」と言われる建設業。ホッと一息つけるブレークタイムを温泉に求めてはいかがですか…。

本物の温泉を訪ねて

子育ても一段落、時間的に余裕ができたが、仕事の上では責任や人間関係・営業成績などストレスがたまりイライラしていませんか？そんな日常を忘れてのんびりと温泉に浸かり心身共にリフレッシュして、新たな気持ちで仕事に向かってはどうでしょうか。

私も50代から奥さん孝行とストレス解消や健康のために温泉めぐりを始めました。車で日帰りや車中泊をしながら中国地方を中心に古くから地域の人に親しまれた源泉かけ流しの「本物の温泉」を探し訪ね歩きました。その中でもお気に入りの温泉を紹介していきたいと思います。

【まが（真賀）温泉】

☆無色透明のトロリとした一押しの湯

私はドライブが好きで、広島から車で中国縦貫道庄原ICを降り国道183号線に出て道後山を越え米子方面へ走り、日原町根雨から出雲街道（181号線）を勝山方面に向かう、途中の新庄村の日露戦争の戦勝記念の凱旋桜は有名。真庭市役所支所から地方道55号線を通り国道313号線に出る。右折し勝山方面に車で10㎞程走った山の斜面に張付いて昔ながらの湯治場の雰囲気を残す数軒の温泉宿がある。

その中で一番高いところにあるのが「真賀温泉館」である。勝山藩の温泉場として整備されたもので、男湯、女湯、家族風呂と混浴の幕湯がある。「幕湯」はお殿様が利用するとき幕で囲って入った名残といわれている。

幕湯が湯元になっており、中に入ると浴槽は5人位でいっぱいといった広さで、湯は無色透明で浴槽の底までくっきりと見える。トロリとした感じで、岩をくりぬいたような湯船の底の岩の割目から竹筒を通して湯がコンコンと湧き出て他の湯船にも注いでいる。

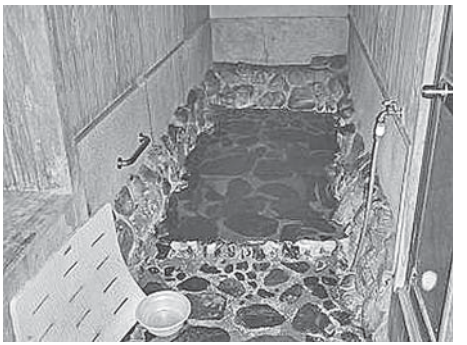
浴槽の中央部は胸までつかるほど深く周囲の岩に腰かけて温まる。湯温は39℃とぬるめで、ゆったりと浸かっていると、湯が体に心地よくまとわりつく感じで時間がたつのを忘れてしまうほど気持ちがいい。

泉質はアルカリ単純泉で無味無臭、肌がすべすべになり体はいつまでもポカポカしている。

幕湯は混浴で、あるとき20代の若いカップルが前も隠さず平気で入ってきて、こちらが驚いて目をそらすといったこともあった。湯上り後は休憩室から、眼下に旭川の清流が渓谷を縫って流れており、爽やかでとても気持ちが良い。

一休みしたら勝山方面に車で10分程下れば西日本一の高さ110mを誇る「神庭の滝」があり、その勇壮な眺めは素晴らしく心身ともリフレッシュできる。

連絡先＝岡山県真庭市仲間181、TEL0867－62－2953

入浴料150円、幕湯250円、駐車場有（国道の駐車帯）

付近には湯原温泉、足温泉、郷緑温泉がある